

力をあわせ

お年寄りの大切な足

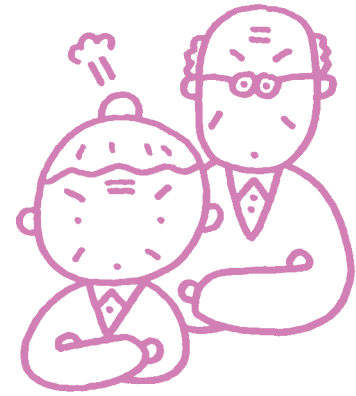
# 敬老パスを守りましょう!



## 敬老パスが危ない!

九月市議会(九月二日〜十月七日)で阿部市長は、今年度から「敬老祝い事業」「介護援助手当て」「基本健康診査事業」などの実質廃止や大幅見直し、粗大ごみと事業系ごみの全面有料化を推進。さらに今後、「敬老パス有料化」や下水道料金の値上げを検討、市民生活を直撃しようとしています。

日本共産党は、切実な市民の声を議会に反映し、くらしを守るために全力をつくしました。



敬老パス有料化にむけた足音が大きくなってきました。

「特養老人ホームへボランティアに行く時に使っている。お金を払ってまで続けられない」「バスに乗らなければ病院

にいけません。パスの有料化は足をもぎ取られるのと同じだ」、市内の老人会を中心に、こんな声があふれています。すでに一回乗ることに一〇〇円を払う案が浮上しています。

「敬老パス」は気軽に外出を保障する高齢者にとって宝の施策です。日本の一人当たりの年金額は月六万円以下が六十三%(九九年厚生労働省)という状況を真摯に見つめるならば有料化はやめるべきです。



2003年10月 第157号 市議会報告  
日本共産党川崎市議員団 日本共産党川崎市委員会  
川崎区砂子2-8-1シャンボール川崎互恵ビル401 211-3731  
(ホームページ) <http://www.jcp-kawasaki.gr.jp>

## 商店などの事業系ごみと粗大ごみを全面有料化 社会福祉法人を含め、減免の特例の範囲を検討中

10kg以下の事業系ごみと粗大ゴミを有料化する条例案が十月一日川崎市議会で、自民党、公明党、民主・市民連合、神奈川ネットなどの賛成多数で可決されました。日本共産党は反対しました。



この結果、川崎市は事業系ごみの収集から撤退し、来年四月から、町の商店、飲食店や花屋さんなどのごみの収集は指定業者と契約をしなければなりません。

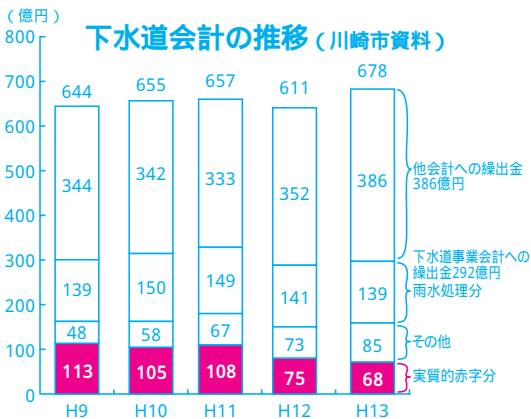
日本共産党は深刻な不況のもとでは有料化すべきではないと主張。バザーなどでやっと運営をしている社会福祉施設まで一律に有料化するやり方を批判しました。この中で環境局長は、市長が認めれば減免が適用される「特例」の範囲について、社会福祉法人も対象を含め検討中であることを明らかにしました。

## 下水道料金も値上げへ

市長の諮問機関「下水道専門委員会」から下水道の新財政計画と経営のあり方についての答申が出され、十一月にも三年ぶりの値上げが提案される模様です。

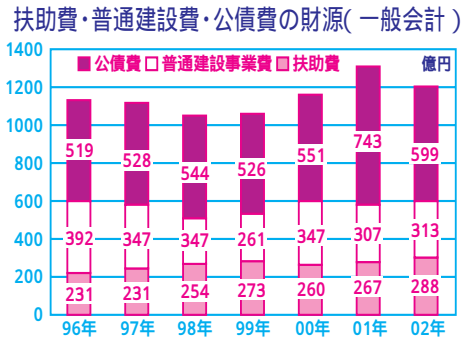
「雨水公費、汚水私費」の原則を強調し、設備投資にかかった費用をできる限り市民の下水道料金に上せすべきだというもの。しかし、下水道は、市民生活や環境保全のために必要不可欠な公共事業であり、こういうところにこそ税金を使うべきです。

下水道会計の「実質赤字」は、九七年からの五年間で百十三億円から六十八億円へ、四十五億円(三十四%減)も大幅に減っています。下水道は全市民的に不可欠なものであり、この程度は一般会計から繰り入れてしかるべきと考えます。



## 市の財政を脅かすのは福祉の予算ではなく、普通建設事業費と公債費

市の財政悪化状況をことさら大きく宣伝し、市民にガマンを押し付ける「阿部行革」ですが、一般財



源ベースで見ると、扶助費が二百六十七億円(平成十三年度決算)に対して、普通建設事業費は三百七億円、公債費は七百四十三億円です。これを見て、扶助費が財政悪化の主な原因でないこと

は一目瞭然です。

今、本当に削らなければいけないのは、車がほとんど通らない高速道路や赤字を生み続ける港の開発など無駄な大規模事業ではないでしょうか。

## 壮大な港のムダづかい!川崎市による“船のこない港”の支援はすぐに中止を

市費三百億円も投入してつくった“船のこない港”コンテナターミナル。平成十四年度末の累積赤字は、ついに六十一億五七八万円と、資本金の一〇倍に。有識者も「維持できているのが奇跡的」と。供用開始後八年間で大型船が入港したのはたった二回。誰が見ても壮大なムダづかいである港の事業から川崎市は一日も早く手を引くよう求めた日本共産党の代表質問に、市長も厳しい経営状況を認め、今年度中に結論を出すことを明らかにしました。